

全国学力・学習状況調査の結果について

去る4月17日に、小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。調査内容は、教科に関する調査（国語・数学・理科の3教科）と、生活習慣や学習環境に関する調査です。3年生には、11月に結果個人票を返却しましたので今後の学習にお役立てください。学校では、返却当日に各教科の授業にて調査問題の解説を行いました。結果を分析・検証した上で、教育活動の充実や授業改善等に役立ててまいりたいと考えます。本校生徒の結果については、以下の通りです。

学力調査の部

国語

国語の調査全体の正答率は、ほとんどの項目で全国平均・県平均を上回る結果となりました。その中で、学習指導要領の内容では特に「話すこと・聞くこと」に関する設問の正答率が高くなっています。これは、日常生活の中で他とのコミュニケーションをよくとっていることにより、自然に自分の気持ちを表現したり、他の話を聞いて考えることができることが成果につながっていると考えます。また、漢字に書き直したり、普段耳にする単語の意味も知識として持っていることが分かります。しかし、ちらしやスライド等、ある条件の中で資料を読み取りながら相手に分かりやすく文章にまとめることについては、やや弱いとの結果が出ています。今後は、授業中に文章を読み、分かりやすくまとめる学習を取り入れ、資料の読み取りや、目的に応じた表現の仕方が身につけられるよう努めます。

数学

数学の調査全体の正答率は、ほとんどの項目で全国平均・県平均を上回る結果となりました。その中で、学習指導要領の内容では特に「関数」に関する設問の正答率が高くなっています。これは、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる力がついていることを示しています。また、問題形式別に見ると、「選択式」および「短答式」の問題で比較的高い正答率を示しました。文字を用いた式等、基礎力が定着している結果だと考えます。また、その一方で「データの活用」に関する設問に関してはやや弱いという結果が出ています。今後は、与えられたデータから必要な数値を読み取ることや、傾向を比較して判断の理由を説明することについて力を付けることをねらい、グループでの学び合いをさらに活発に行えるよう、支援していきます。

理科

理科の調査全体の正答率は、いくつかの項目で全国平均・県平均には及ばなかった結果となりました。全体的に、知識を問う問題であれば問題形式にかかわらず正答率は高い傾向が見られます。これは、ドリル学習や家庭学習の成果が出ていると考えられます。また、一方で、「エネルギー」に関する設問に関してはやや弱く、思考を問う問題形式になると正答率が下がる傾向が見られます。今後は、小单元ごとに思考し判断しなければならない学習課題を設定し、グループ内での話し合いを通して、より思考を深めさせるよう働きかけます。また、小单元が終わるごとに小テストを行い、生徒のつまづきを確認するとともに、その結果およびグループでの対話から全体へのフィードバックにもつなげていきます。



学習状況調査の部

全80質問項目のうち、代表的・特徴的なものを抜粋します。

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等の肯定的な回答の合計が全国と比べて高い項目

- 自分には、よいところがあると思いますか
- 将来の夢や目標を持っていますか
- 人が困っているときは、すすんで助けていますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 学校に行くのは楽しいと思いますか
- 読書は好きですか
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか
- 1・2年生の時受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等の肯定的な回答の合計が全国と比べて低い項目

- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- 友達関係に満足していますか
- これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか